旭川市水道・下水道ビジョン　【概要版】

第1章　はじめに

※ビジョンの「策定の趣旨」「位置付け」「計画期間」について記載

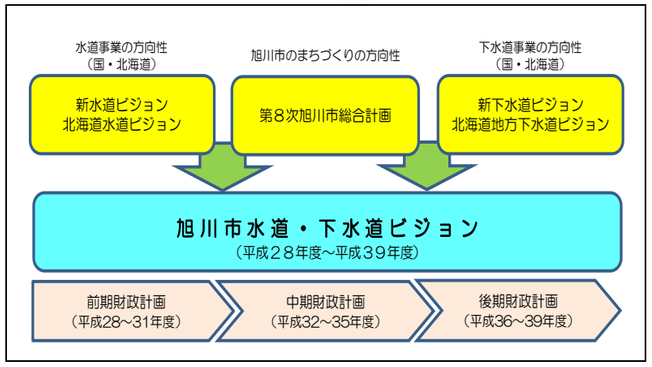
【策定の趣旨】

・整備・拡張の時代から維持・管理の時代を迎えていることに加え，人口減少や節水意識の高まりなどにより水需要は減少傾向にあり，経営の根幹を成す料金・使用料収入の今後の伸びは期待できない。このような中，老朽化した既存施設の更新や長寿命化，自然災害への対応などに取り組んでいく必要がある。
・ビジョンは，経営環境が厳しさを増している中にあって，今後の水道・下水道事業を総合的かつ計画的に推進するための指針として策定したもの。

【計画期間】

・平成28年度（2016年度）から平成39年度（2027年度）までの12年間
・12年間の期間を前期・中期・後期に分け，それぞれ4か年を計画期間とする財政計画を策定

ビジョンの位置付け



第2章　事業の概要

※水道・下水道事業の「沿革」「施設の概要」について記載

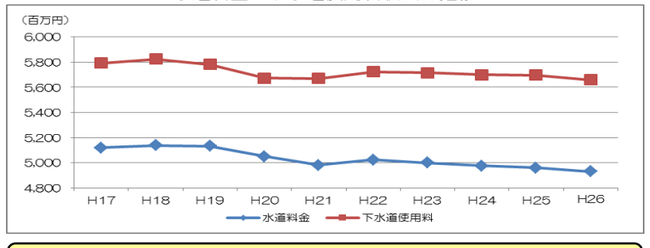
第3章　事業の現状評価・課題

※「持続」「安全」「強靭」の三つの観点から現状評価と課題について記載

【持　　続】

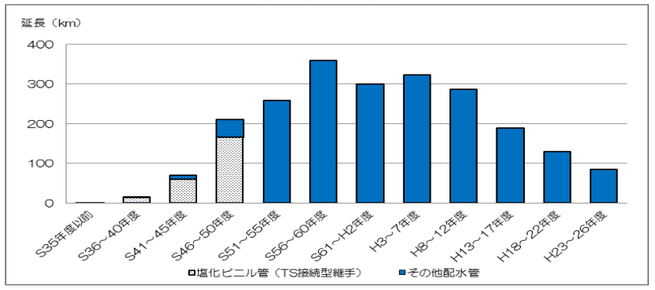
(1) 水需要の減少（人口の動向，有収水量・有収汚水量及び料金収入）
(2) 水道・下水道施設の老朽化　　(3) 人材育成と技術の継承
(4) お客様ニーズの多様化　　(5) 財政状況（損益及び資金収支，企業債残高）
(6) 地方公営企業会計制度の見直し

水道料金・下水道使用料収入の推移

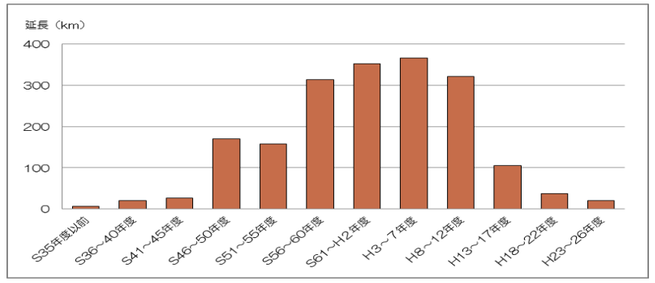


料金・使用料収入は，平成19年度以降逓減傾向が続いている。

配水管布設延長

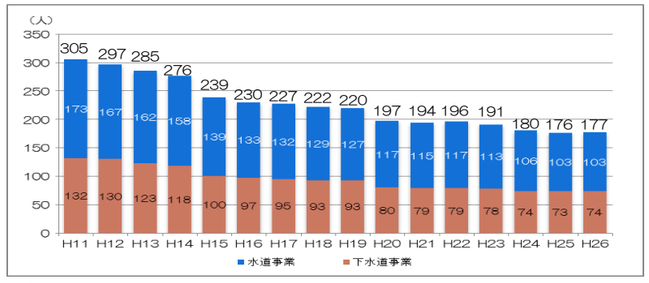


下水道管路布設延長



水道・下水道の機能を支える施設や管路は，昭和40年代から昭和50年代に整備されたものも多く，これらは耐用年数以上経過し，経年劣化など老朽化による更新時期を迎える。
施設の適正な更新には，長い期間と多額の費用を要することから，水道・下水道機能の持続のためには，事業費の平準化を図るなど計画的・効率的な改築更新が必要。

職員数の推移



経営効率化のための組織の見直しや民間委託の推進により，職員数が徐々に減少するとともに，現場業務を通じて技術を培う機会も減ってきている。
長期的な視点に立って効率的な組織体制を整備するとともに，専門的な知識と経験を有する人材の育成と，これまでに培ってきた技術の継承を着実に進めていく必要がある。

【安　　全】

(1) 水道水の安全性（水源の水質，水道水の水質管理，受水槽（貯水槽）の管理）
(2) 放流水の水質管理　　(3) 浸水対策　　(4) 不明水対策

水道水の信頼性の保証として，水質検査の精度と結果を高い水準で維持するとともに，検査体制の適正化と透明性の確保が求められている。
下水処理センターで処理された後の放流水も法定放流水質基準を守り，河川の自然環境の保全に努めていく必要がある。

【強　　靭】

(1) 危機管理対策（水道施設の耐震化，下水道施設の耐震化）
(2) 危機管理体制

水道・下水道施設とも更新に併せて耐震化を進めているが，全てを耐震化するには膨大な事業費と長い期間を要することから，必要性や優先度なども踏まえながら，計画的・効率的に耐震化を推進する必要がある。

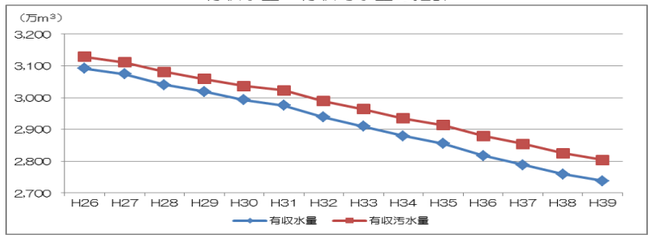
第4章　将来の事業環境

※「外部環境」と「内部環境」ごとに将来の事業環境について記載

【外部環境】

(1) 人口減少　　(2) 有収水量及び有収汚水量　　(3) 災害等への対応
(4) 水源の水質　　(5) 水質の管理

有収水量・有収汚水量の推計



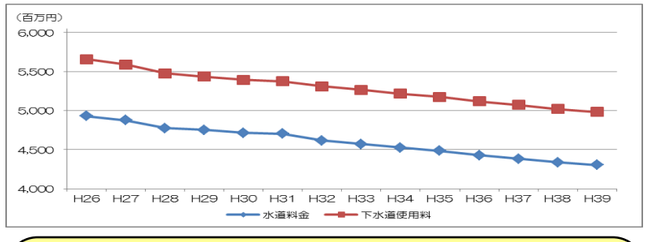
平成39年度の人口は312,000人と平成26年度よりも約35,000人減少する一方，高齢化率は29.3%から36.5%になると見込まれる。
人口の減少と高齢化の進行に伴い，有収水量及び有収汚水量も減少傾向が続くと想定される。

【内部環境】

(1) 水道・下水道施設の老朽化　　(2) 財政状況

昭和25年に事業着手した水道事業は，高度経済成長期における急速な水需要の増加に対応するため拡張整備された施設が多くあり，既に老朽化が進んでいる。
昭和33年から事業着手した下水道事業は，今後耐用年数を迎え老朽化する施設が増え続ける。

水道料金・下水道使用料収入の推計



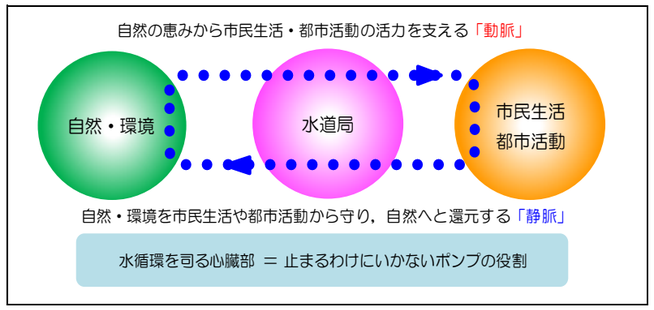
人口の減少等に伴い，水道・下水道事業の料金収入は減少していくことが見込まれる。また，施設の老朽化の状況を踏まえると，両事業ともに事業費の平準化を図りながらも維持管理費や建設改良費及び企業債は一定程度の規模になると見込まれる。
このような状況から，両事業ともに資金残高が減少し，本ビジョンの計画期間内に資金不足に陥ることが予想され，非常に厳しい財政局面を迎えることが見込まれる。

第5章　水道局の使命，理想像，基本理念，目標設定

【水道局の使命】

・水道局は，自らの使命を「水循環を司る心臓部」と位置付け，止まるわけにいかないポンプの役割を担ってきた。この使命は今後とも変わるものではなく，その重要性は更に高まっている。
・水道局は，お客様の信頼を得ながら事業を推進していくことにより，ライフラインとしての機能を維持し，引き続き「水循環を司る心臓部」としての使命を果たしていく。

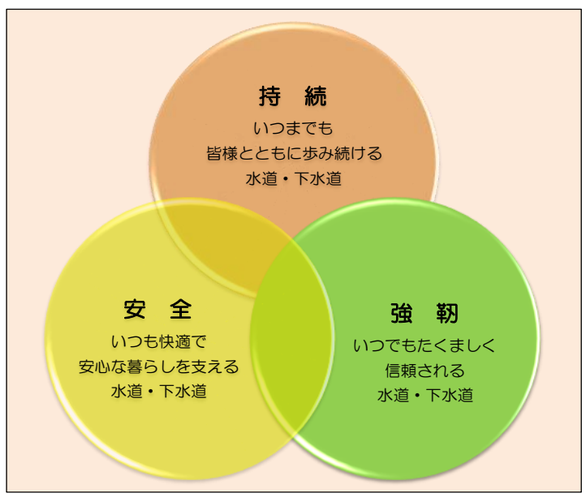
水道局の使命



【理想像，基本理念】

・50年，100年先を見据えた水道・下水道の理想像を「持続」「安全」「強靭」の三つの観点から設定するとともに基本理念を設定

理　想　像



基 本 理 念

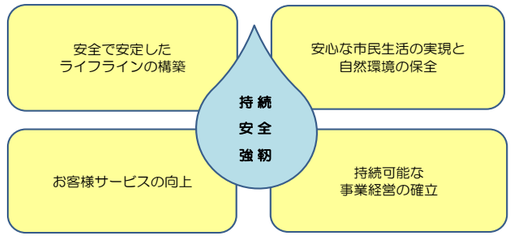
次世代へつなぐ信頼の水循環
～　あさひかわの水道・下水道　～

【目標設定】

・「持続」「安全」「強靭」の理想像の具現化を図るため，四つの目標を設定

目 標 設 定

（目標1）「安全で安定したライフラインの構築」
（目標2）「安心な市民生活の実現と自然環境の保全」
（目標3）「お客様サービスの向上」
（目標4）「持続可能な事業経営の確立」



第6章　実現方策

※「施策体系」「各種推進方策」「指標一覧」について記載

【各種推進方策】

目　標	目標達成のための推進方策	
	基 本 施 策	重 点 事 業
安全で安定したライフラインの構築	1 計画的な施設等の更新	(1) 水道施設の更新 (2) 下水道施設の更新 (3) 不明水対策の推進
	2 安定した水供給の確立	(1) 配水監視の充実 (2) 漏水防止対策の強化
	3 浸水対策の推進	(1) 雨水幹線の整備 (2) 雨水排除施設の整備
	4 危機管理対策の推進	(1) 耐震化の推進 (2) バックアップ機能の確保
安心な市民生活の実現と自然環境の保全	1 安心・安全な水の供給	(1) 原水水質汚染対策 (2) 水道ＧＬＰの継続 (3) 貯水槽水道の適切な管理
	2 危機管理体制の強化	(1) 危機管理体制の強化 (2) 雨水排除体制の強化
	3 自然環境の保全	(1) 放流水質の管理 (2) 資源の有効活用
お客様サービスの向上	1 きめ細かなサービスの提供	(1) 窓口サービスの向上 (2) 料金納付の利便性の向上
	2 お客様ニーズの把握と広報活動の充実	(1) 広聴活動の充実 (2) 広報活動，情報提供の充実
持続可能な事業経営の確立	1 組織力の向上	(1) 適正かつ機能的な組織体制の構築 (2) 人材の育成と技術の継承
	2 経営の効率化	(1) 官民連携の推進 (2) ストックマネジメントを踏まえた資産の効果的な活用
	3 財政基盤の強化	(1) 企業債利息の軽減 (2) 長期運転資金の確保 (3) 料金体系の検討 (4) 収納対策の強化
	4 広域的な取組の推進	(1) 近隣自治体等との連携
	5 地方公営企業会計制度見直しへの対応	(1) 地方公営企業会計制度見直しへの対応

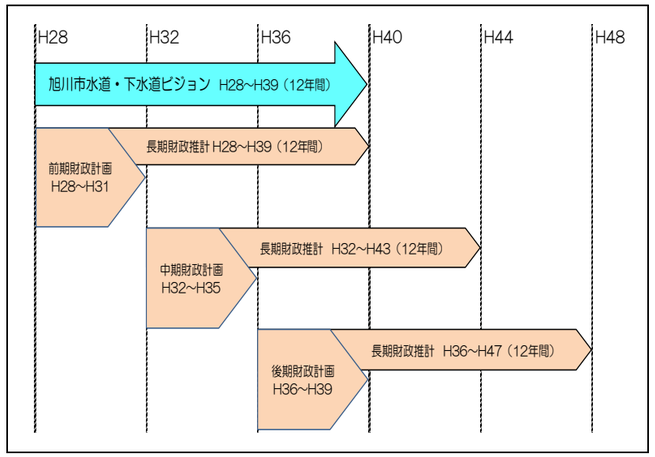
【指標一覧】

・重点事業ごとに指標と目標を設定

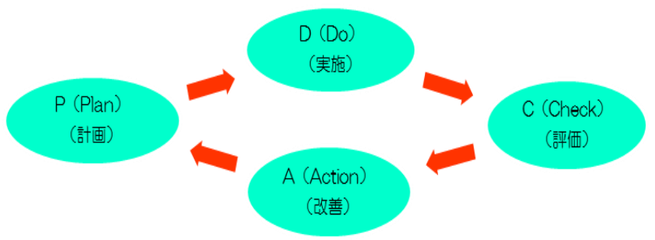
第7章　フォローアップ

・ビジョンの計画期間を前期・中期・後期に分け，それぞれ4か年を計画期間とする財政計画を策定
・各財政計画の策定に当たっては，向こう12年間の財政収支を推計（長期財政推計）し，中長期的な経営の動向を踏まえながら水道・下水道事業を運営
・計画の推進に当たっては，ＰＤＣＡサイクルによる進行管理を行う。
・必要に応じてビジョンの見直しを行いながら，信頼の水循環を次世代へつなぐ。

ビジョン，財政計画，長期財政推計の関係



ＰＤＣＡサイクル



参考資料

※「用語の解説」「水道・下水道アンケート結果」について記載

旭川市水道のマスコット
「水道ぼうや」

旭川市下水道のマスコット
「カンタくん」